

## 注目の新設校インタビュー

お話 細田学園中学校(認可申請中)

副理事長・副学園長 持田 直人 先生



編集部 よろしくおしいたします。細田学園で中学校を開校しようとお考えになったきっかけからお話いただけますか。

持田 細田学園高校は、学校改革の成果で応募者が増加傾向にあります。また、大学合格実績も、国公立大進学者がコンスタントに毎年出るようになったほか、今年は早慶上智理科大ICU17名、GMARCH・有名私大112名と飛躍的に増加しました。そして、さらに本校が目指す教育を行っていくには、中学校を開校し、6年間一貫で取り組もうと考えたわけです。

編集部 細田学園が目指す教育とは、どのようなものでしょうか。

持田 今から22年後、2040年の社会を考えてみてください。現在とはかなり違う社会になっているはずですが。テクノロジーは進歩し、人々は単純作業的な仕事からは解放されるでしょう。医療も進歩し、人生100年だって珍しくない。60歳で定年になっても、あと40年もあります。

編集部 「余生」とは言えない長さですね。

持田 当然、人々の生き方も変わります。おそらく「働くこと」の概念が変わると思います。

編集部 どのように変わるのでしょうか。

持田 現在は、自分がやりたい仕事をやりたいようにできる人は限られています。ほとんどの人は、多かれ少なかれ、いやなことをしてでも働かなければ生きていけません。しかし、AIの進歩で最低限の生活が支えられる基盤が整えば、いやなことをしなくても最低限の生活はできるようになるでしょう。

編集部 無理をしなくてもよくなるわけですね。

持田 そうです。でも、最低限の生活では、物質的な面では生きていけても、仕事や人生に、意義を感じて充実した日々を過ごすようなライフスタイルとは言えません。私たちは、こうした社会で「輝くことのできる人」を育てたいと思っています。

編集部 「輝くことのできる人」は、どのような日々を過ごしているのでしょうか。

持田 2040年の社会で、自分の好きなこと、自分が得意な分野に取り組んで、その結果が社会に貢献すること、こうした実感が得られる日々を過ごしている人だと思います。本学園が目指す教育とは、未来の社会で「輝くことのできる人」に成長するよう、生徒たちに学びの場を提供することです。

編集部 細田学園の中高一貫教育の理念はどのようなものでしょうか。

持田 「dots【原体験】教育」です。6年間に沢山のいろいろな原体験の場を設けます。その原体験が生徒の個性や価値観を育み、自己理解を深め、個を確立していきます。

編集部 もう少し詳しくお願いします。

持田 未来創造力、国際力・英語力、人間力の育成です。未来創造力は、未来を創り出せる人になるための次世代型の教育実践や、その土台となる確かな学力の育成、国際力・英語力は、国際社会で活躍できる英語力や、単に英語ができるだけでなく、異文化を理解する力の育成、そして人間力は、本校の建学の精神である「愛と奉仕」を実践して他者に貢献する力や、自分で決断できる力の育成です。

編集部 6年間の流れをお願いします。

持田 中高6年間で、中1の「移行期」、中2・中3の「dots 拡張期」、高1・高2の「dots 探求期」、高3の「dots 結合期」に分けます。本校では今後も高校からの入学生を迎えますが、中高一貫生は一貫生だけのクラスで、高校入学生とは、高3の一部の選択授業で一緒になることがあるかもしれませんが、別クラスで6年間学びます。

編集部 「移行期」はどのような点に重点を置くのでしょうか。

持田 良い習慣作りが最重点です。挨拶、身だしなみ、時間を守る、ルールを守る、といった生活面や、予習・復習、学びに向かう姿勢、読書などの学習面、そして英語環境になじむ、自分で決断するなど、本校の中高一貫生として必要な姿勢、生活習慣を身に付けます。

編集部 なかなか生徒に「言う」だけでは身につかないこともありますね。

持田 今の小学生は、生活の基本が不十分だったり、身につけていなかったりとさまざまです。本校では1クラス30名程度で副担任も置きますから、ひとり一人をしっかり見て指導していきます。

編集部 「dots 拡張期」はいかがでしょう。

持田 教科の学習だけでなく、様々な行事を通じて「dots【原体験】」を積み重ねていきます。教科教育は、受動的になりがちな従来型の授業ではなく、次世代型教育としてDITOMETHODを取り入れます。

編集部 どのようなメソッドですか。

持田 「D」はDefineで、自分なりの課題を設定すること、そして「I」はInputとしてその課題に必要な知識を集め、次に「T」はThink overですね。情報を整理してアイデアを生み出します。個人での学習もあれば、グループで討議することもあります。そしてまとまったら「O」のOutput、プレゼンテーションで発表します。この流れを各教科の学習に組み込みます。

編集部 いわゆるアクティブラーニングですね。こうした授業形式では議論する力や発表力は身に付きますが、基礎学力は大丈夫なのか、という声

も聞きますが。

持田 計算練習や社会の暗記などのことですね。こうした従来型の、技能や知識中心の教育も、私たちは決して疎かにしません。形だけDITOMETHODを取り入れても、薄い中身しかできません。DITOMETHODによる次世代型教育と知識中心の従来型教育はいわば車の両輪です。どちらを欠いても上手に走ることはできません。ゆえに従来の学校がやっているような、ドリル的なトレーニングも行っています。知識や技能を身に付けてこそ、DITOMETHODも生きてきます。

編集部 「dots 探求期」はどのような点に重点を置くのでしょうか。

持田 「dots 拡張期」の延長で、教科教育ではさらに深い内容を身に付け、必修科目は高2の途中くらいで終わる予定ですが、並行して、自分の興味・関心や、得意分野をもとに、学びを主体的なものにシフトし、テーマを定めて、グローバルな視点での研究活動に取り組みます。深めていった成果として、論文作成や研究発表も検討しています。

編集部 論文作成や研究発表の深さは、何か目標があるのでしょうか。

持田 それはいろいろあると思います。様々な高校生のコンクールなどを見ていると、中には学会で発表してもおかしくないような、しっかりした高度な研究もありますが、高校段階で研究者を育てることが目標ではありません。あくまでも未来の社会で輝くための土台作りです。高度な内容を研究してもよいし、あまり高度ではなくても、取り組む姿勢としっかりした学力が身につけばよいのです。

編集部 生徒ひとり一人によって変わるわけですね。

持田 はい。研究の深さについて、学校はボーダーを引く必要はないと思います。むしろ、本人たちが求めているレベルの一步先を教員が提示して、そこに向かって努力させることが教員の仕事でしょう。全員がそれぞれの研究活動でこのレベルまで、とは考えていません。

編集部 「dots 結合期」はいかがですか。

持田 ここまでの5年間で積み上げた、様々な「dots【原体験】」から生まれた、自分の特性や強みを踏まえて進路目標を定めます。そして実現のために最大限努力して、自己実現を図ります。

編集部 大学進学ですね。目標はありますか。

持田 東大・東工大・一橋大・国公立医学部で30名、早慶上智理科大も80%以上、といったところでしょうか。すでに高校入学生の特進Hコースで国公立・早慶上智理科ICU大で67%の進学実績なので、中高一貫なら十分可能だと考えています。また、生徒約7人に1人の割合でネイティブを配置、オンライン英会話も行いますから、卒業時の英語力はCEFR(国際的な英語力レベル)でB2(英検準1級相当)を目指します。これなら海外大学も十分視野に入れることができます。



【細田学園新校舎】

編集部 今度は生活面についていかがですか。通学は基本的にバスですか。

持田 志木駅からはバスで5分ですから、歩いても良いと思います。また、浦和駅から中浦和駅経由のバスが頻繁に走っています。

編集部 週6日制ですね。部活動はどのような予定でしょうか。

持田 授業は週34時間で、一緒にできる部活動は中高一緒に、体力面などで難しい種目などは別々を予定しています。体育祭、学園祭は中高一

緒に盛り上がりたいと思っていますが、生徒会は別々で、中学生にも活躍の場を確保します。

編集部 昼食はお弁当ですか。

持田 中学生はカフェテリアの利用を考えていません。お弁当をお願いする予定です。ただし、ご用意が難しい場合でも、学校でお弁当の販売があります。

編集部 入試の予定をお聞かせください。

持田 初年度ですから数多く設定します。特待入試は1月10日午後と13日午前の2回、国算の2教科と国算社理4教科の選択です。一般入試は1月10日午前、12日午前、13日午前と2月4日午前で、基本的に4教科ですが、1月12・13日は国算英の選択もできます。英語は英検3級程度を想定しています。さらに適性検査型も1月10日午前と19日午前を実施します。10日は市立浦和に似た出題、19日は都立中高一貫校に似た出題です。

編集部 帰国生入試は行いますか。

持田 12月1日と1月7日です。エッセイライティングと面接です。エッセイは生活など身近なテーマにする予定です。

編集部 想定している併願校はありますか。

持田 立地から、特待は立教新座や淑徳と野、一般併願入試は城北や巣鴨、富士見、適性検査型は市立浦和や都立大泉の受験生が多くなるのではと思っています。

編集部 最後に受験生、保護者の皆さんにメッセージをお願いします。

持田 2040年、今の小6は34歳です。社会は大きく変わっているでしょう。今までの価値観や考え方は通用しません。本校は、その時に必要とされる力を身に付け、幸せになれる教育を行う次世代型進学校です。好奇心のある前向きなお子様を待っています。ぜひ2040年、2050年を見据えた学校選びを行ってください。

編集部 ありがとうございました。

細田学園中学校(認可申請中)

- ・ 交通案内 国際興業バス 浦和駅西口・中浦和駅・南与野駅西口・志木駅東口から「富士道入口」下車
  - ・ 説明会 9/19(水)、10/13(土)、11/25(日)、入試体験会 10/28(日)、12/16(日)すべてホームページで予約
- <https://www.hosodagakuen.jp/juniorhighschool/>